

# 滝川の

# 鎧が淵の蛇

平成二年六月五日号

原田を流れる滝川の永明寺ようめい西には、鎧が淵というふちがあり、ここには、大蛇が住んでいると言われています。今回は、この話を原田の鈴木好郎さんに教えてもらいました。

## 釣りに夢中の治兵衛

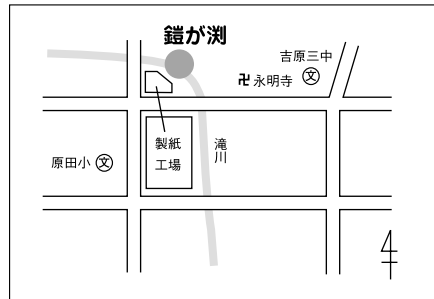
大正のころのことです。原田に治兵衛じへえさんという魚どりの好きな人がいました。

治兵衛さんはある日、鎧が淵に釣りに出かけました。ふちは深く、周りには木が生い茂っ

て、薄暗い場所です。しかも、大蛇が住んでいるという言い伝えもあり、治兵衛さんはビクビクしながら釣りをしていました。ところが、その日は大きなヤマメがよく釣れました。治兵衛さんは、いつしか時のたつのも忘れて釣りに夢中になりました。

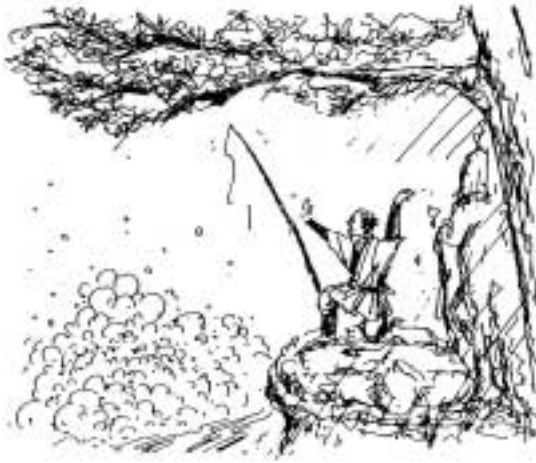
## 川に落ちた蛇

「きょうは本当によく釣れるのう」などと言いながら、釣り糸を垂らそうとしたときです。釣りざおの先が木の枝に引っかかりました。治兵衛さんが上を見ると、小枝に小さな



蛇が絡みついているのを見つけました。

治兵衛さんはいたずら半分に、釣りざおで蛇を突つきました。すると、蛇は水面に落



ち、水の中へ潜っていきました。

ところが、どうでしょう。急に水面に泡が立ち始めました。泡は、見る見るうちにふちいっぱいになり、治兵衛さんを包み込んでしまいいそうになりました。

治兵衛さんは驚いて、一目散に逃げ出しました。そして、友達に「もう俺は鎧が洩では魚をとらないぞ」と首を縮めて話したということです。

### ふちでよく遊んだよ

鈴木さんは「この話は、若いころ近所の人から聞きました。治兵衛さんは実在した人で、魚とりの名人だったよ。滝川は今の十倍ぐらいの水量で、鎧が洩は三メートルぐらいの滝になっていたね。恐ろしい所だったけど、よく遊んだよ」と語ってくれました。

語ってくれた方

鈴木好郎さん